

情報ネット後志

NO.6 2011年 9月
発行：後志農業改良普及センター

平成23年度 活動体制
平成22年度に成果の上があった活動



平成23年度の普及活動方針と活動体制

所長 金光 優

地域農業が生産物価格の低迷や生産資材等の高騰、担い手不足が進展するなか、生産基盤の維持や地域生産力の向上が重要な地域課題となっています。農業改良普及センターは、担い手の育成・確保 地域資源を活用した農業振興 収益性の高い農業の確立 環境と調和した農業生産 を活動方針として、後志地域がその潜在力を最大限に発揮し個性豊かな取組みを展開できるよう、農業者の意向をふまえて総合振興局や市町村、関係団体などと連携を図りながら提案型の普及活動を推進します。

所長 金光	本所 次長 金澤	調整係長 森	菊地 戸川 田島 高嶋	俱知安町 京極町	
		地域第1係長 二俣	八田 松田 半澤	二セコ町 蘭越町	
		地域第2係長 加賀谷	須佐 草野	共和町 岩内町 泊村 神恵内村	
		地域第3係長 伊藤	入澤 花岡 西川 小形	真狩村 留寿都村 喜茂別町	
	南後志 支所長 北島	地域係長 竹井	尾島 若杉	黒松内町 島牧村 寿都町	
	北後志 支所長 佐々木	支所次長 山田	地域第1係長 西村	戸川 佐々木 古舘	余市町 仁木町
			地域第2係長 櫻村	高橋 酒井 原田	積丹町 古平町 赤井川村 小樽市
	主任普及指導員 黒川	花き主査 入澤	果樹主査 戸川	畜産主査 尾島	後志管内
	主任普及指導員 高田	人材育成主査 中島	高付加価値化主査 上西		
		情報・クリーン・有機農業主査 会川	生産合理化・組織化主査 武井		

後志農業改良普及センター本所
住 所 虻田郡俱知安町旭 57-1
T E L 0136-22-1072
F A X 0136-22-4744
shiribeshi-nokai.1@pref.hokkaido.lg.jp

南後志支所
住 所 寿都郡黒松内町字黒松内 309
T E L 0136-72-3161
F A X 0136-72-3456
shiribeshi-nokai.minami1@pref.hokkaido.lg.jp

北後志支所
住 所 余市郡余市町朝日町 11 番地 1
T E L 0135-22-5135
F A X 0135-22-5987
shiribeshi-nokai.kita1@pref.hokkaido.lg.jp

平成 22 年度に成果の上がった活動

連携の成果！ 短期間で馬鈴しょの適正施肥を推進

担当：本所 地域第二係

共和町の馬鈴しょ作付けは、畑作面積の約 2 割を占め地域の基幹作物です。しかし、平成 19・20 年の 2 カ年は変形が多発して製品率が著しく低下しました。

そこで、関係機関と共に栽培実態調査を行った結果、多肥栽培の実態が明らかになりました。

多肥栽培改善のため、平成 21 年に馬鈴薯生産組合と J A 営農指導課、普及センターが連携して 21 戸、33 箇所です窒素減肥実証ほを設置しました。

結果は慣行の施肥窒素量が 15kg/10a 以上のほ場では、減肥による品質・粗収益の向上が見られました。

この結果を講習会や営農資料で紹介し、生産者、関係機関と情報の共有を図りました。

平成 22 年度は製品収量 2,800kg/10a および製品率 75%を目標として、前年度良好な結果が得られた施肥窒素 13kg/10a になるよう、慣行より窒素 2.0～2.6kg 減らした減肥実証ほを 7 戸に設置して品質・収益性を検証しました。

結果は 1 戸が目標を達成し、3 戸がほぼ満足いく成績になり、施肥窒素量が多くなるほど品質や粗収益が低下していることが分かりました（表 1）。

また、他の 3 戸も施肥改善に対する意識は高く、馬鈴薯生産組合全体で施肥改善の動きが見られました。

2 カ年の活動から、共和町の男爵薯栽培における適正施肥窒素量は、製品収量 3,000kg/10a 以上でライマン価 14%以上とした場合、施肥窒素量 10～13kg/10a と提案できます。

馬鈴薯生産組合、J A 営農指導課、普及センターの連携・協力の結果と考えられ、関係諸氏に感謝します。



提案窒素別実証ほ植付け



実証ほ生育調査



実証ほ収量調査

表 1 4 戸の実証ほ成績

農家	年度	施肥窒素量 (kg/10a)	製品収量 (kg/10a)	B 品収量 (kg/10a)	製品率 (%)	総収量 (kg/10a)	ライマン (%)	肥料費差引粗収益 (千円/10a)	同左比 (%)	H21対比改善効果
A	H21	15.6	3009	1512	67	4783	14.9	291	100	
	H22	13.0	2869	1152	71	4311	14.2	291	100	=
B	H21	16.9	2729	856	76	3758	15.5	196	100	
	H22	13.0	2798	538	84	3608	14.4	247	126	+
C	H21	15.0	2919	1005	75	3892	14.1	245	100	
	H22	12.0	2996	799	79	4192	13.7	246	100	=
D	H21	15.6	2814	944	75	3871	14.9	259	100	
	H22	12.0	2799	792	78	3841	14.5	257	99	=

凡例：改善効果：+効果あり・=同等・-効果なし

アツイ夏 てまひま省いて 適期作業!!

担当：北支所 地域第一係

<< 忙しすぎる夏・・・ >>

収穫・選別
作業に追わ
れるんさ!



最優先になる収穫作業

遅れると余計に
時間かかるんだわ!



後手後手になってしま
う夏の管理作業



減ってしまう単価が高い9月の着果数

というわけで、2年にわたって活動を展開 !!

取り組んだ課題

提案して実証したこと

めざす方向

夏の省力&低コスト化

提案：6月下旬に上位2花房を摘房しましょう！

ラクしても同
じ収入を得
ることできま
すよ !!

提案：着果ホルモン処理を省略しましょう !!

春の省力&低コスト化

提案：側枝2本仕立てにしましょう !!!

<< こんな活動しました !! >>



提案事項の実証ほを設置 !!



現地研修会で提案事項を
説明 !!

イイカンジ
だべさ !!

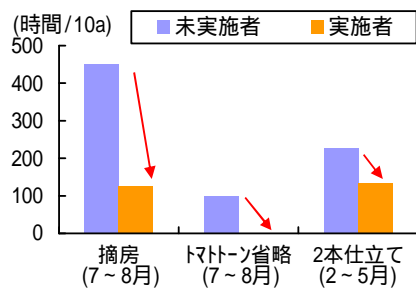


提案事項と同じ研究をして
いる試験場を視察 !!

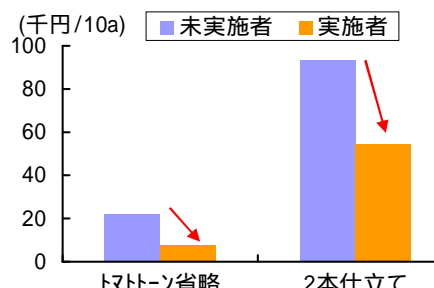


提案事項の実証結果を冬の
反省会で報告 !!

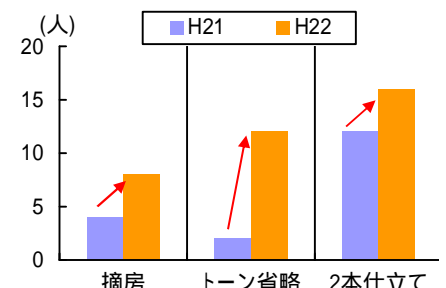
<< で、どーなった? >>



狙いの時期の省力化も実現 !!
(カッコ内が狙いの時期)



実施することで減るコスト !!



提案事項の実施者が増加 !!

<< お知らせ >>

提案事項について解説した小冊子も あります !!

詳しく知りたい方は北後志支所へお問い合わせください。



TEL 0135-22-5135



青年農業者へのプロジェクト活動支援

担当：本所 担い手担当

後志管内には10の農業青年組織（4Hクラブ等）があり、特色ある活動を行っています。4Hクラブではプロジェクト活動により日常の営農の中で問題点を発見し、その問題を解決するための目標を決め、課題解決のための試験や調査、学習を行います。普及センターではプロジェクト活動の課題の設定、調査の手法、作物栽培に関する技術指導、活動成果のとりまとめやプロジェクト発表の支援を行っています。

青年活動でのプロジェクトの積み重ねは 観察力や判断力が向上し、課題解決能力が向上する。 営農や農村社会の実践的な知識や技術が習得できる。 仲間との協調性がうまれる。 地域や生産組織に寄与できる。 自信や満足感が得られ、経営への意欲が高まる。など多くの効果をもたらします。

平成22年度は真狩ドリームファクターズが、北海道青年農業者会議農産経営部門で最優秀賞受賞、さらに全国青年農業者会議に北海道代表として参加し、農業経営（土地利用型）部門で農林水産大臣賞を受賞しました。このプロジェクトは「堆肥に願いを ～堆肥の活用による肥料コスト削減を目指して～」と題し、家畜ふん堆肥を活用した肥料コストの削減の取り組みで、栽培試験から作業時間を含めた経済性、地域への活動報告による成果の波及までを発表したものです。



全国青年農業者会議で発表



このプロジェクトは2年継続の取り組みで、4Hクラブ員と担当普及指導員が一体となり、多くの方の意見や助言を取り入れながら何度も検討・修正して完成しました。

クラブ員は全道・全国での発表では様々な経営形態や取り組みに触れることにより視野を広げ、目線を上げるきっかけとなりました。また、プロジェクト発表で最高の評価を得た事は大きな自信となり、若

手会員にとっても今後の組織活動の意欲醸成につながりました。

さらに、後志管内の他のグループにも受賞報告し、その機運を共有することで、他の組織の意欲も盛り上げました。

その他の4Hクラブの活動も消費者交流や鳥獣害対策、新規作物の栽培研究など多岐にわたっています。

今後の成果に期待が寄せられています。



後志管内の青年組織が集う「STAFF 交流会」で受賞報告。正の連鎖で他の組織も盛り上げる。